

## 三番瀬を横切る第2湾岸道路の具体化急浮上

「三番瀬」を横切る形で構想されている「第2湾岸道路」建設のために、いまから20年前、三番瀬には埋め立て計画がありました。

**県議会で自民党が早期具体化を要望**

そしてこの間、県議会では自民党議員が「第2湾岸道路の早期具体化」を県に求め、森田知事もそれに応える答弁を行いました。

昨年3月に開かれた国土交通省の「千葉県湾岸地域渋滞ボトルネック検討WG」では、国交省が「規格の高い道路の必要性等についても検討し、計画を策定」と述べ、千葉県も「新たな自動車専用道路などによる湾岸軸の道路ネットワークの強化が必要」として、三番瀬を横切るルート図も添えて提起しています。



東京湾の最奥部に広がる三番瀬  
11月1日・船橋三番瀬海浜公園



第2湾岸道路のルートが示されている国土交通省提出図面

昨年11月11日に県主催で開かれた「三番瀬ミーティング」では、「第2湾岸道路は三番瀬を通らないと考

えていいのか」との質問に、環境部門の県担当者が「三番瀬再生計画には第2湾岸

道路の記載が無いので、三番瀬を通すとも通さないとも言えない」と答えています。

埋め立て計画を白紙撤回した際に県は、「第2湾岸道路は三番瀬再生計画と整合性がとれるようにする」「三番瀬の自然環境に極力影響がないように必要な調整をはかる」としていましたが、この間の動きは、こうした県の姿勢と矛盾します。

**湾岸部の交通量は大幅に減っている**

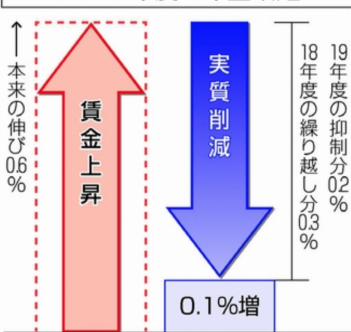
これらを質するため1月9日、「三番瀬を守る連絡会」が県から聞き取りを行いました。

第2湾岸道路について1999年に県は、「江戸川をまたぐ主要6路線の交通量の合



聞き取りを行う「三番瀬を守る連絡会」と丸山慎一県議（正面左、岩井友子市議（左から3人目）  
11月9日・県議院内

### 2019年度の年金改定



本来、年金支給額は、物価や賃金の上昇に応じて増額

ことになります。

厚生労働省は1月18日、2019年度の公的年金支給額の伸びを、本来の0.6%から、実質的に0.5%削減して0.1%に抑えると発表しました。10月には消費税10%への大増税も実施されようとしており、年金を支えとしている高齢者の厳しい生活実態に追い打ちをかけることとなります。

## 公的年金を実質0.5%削減 厚生労働省が「マクロ経済スライド」を実施

それでも県は、「減っているのはその通り。しかし湾岸部が県平均の車の速度より低い」として「必要だ」と強弁しています。

**建設時の莫大な借金が後世の世代に**

「建設すれば莫大な借金が残ることになる」との指摘に県は「社会資本を残すのが自

することになっており、来年度はそれが0.6%でした。

これにたいして、年金加入者の減少や平均年齢の延びなどを理由に、伸び率を低く抑える「マクロ経済スライド」を發動して0.2%減額します。2015年度以来4年ぶりの發動で、今回で2度目となります。

**過去の繰り越し分も上乗せして削減**

「マクロ経済スライド」

は、物価と賃金とともに上昇した場合を發動条件としていますが、安倍政権は、実施できなかった分を翌年度以降に繰り越す仕組みを導入。2018年度の未実施分0.3%を来年度の減額に上乗せする

分たちの仕事」と回答。参加者は「いまは自然を後世に残すことの方が大事だ」と強調しました。また第2湾岸道路の需要予測については「つかんでいない」と答えました。

聞き取りを通じて、建設する必要性は後付けで、第2湾岸道路を造ること自体が目的だということが、あらためて浮き彫りになりました。

ため、計0.5%の圧縮となります。

0.1%増によるモデル的な支給月額額は、国民年金が67円増の6万5008円（満額）、厚生年金は夫妻2人の標準的な世帯で227円増の22万1504円ですが、本来の0.6%の引き上げと比べると、国民年金は月335円、厚生年金は月1135円も実質削減されることとなります（同様のモデルケースで機械的に計算した場合）。

これまで安倍政権は2012～16年度で高齢者1人あたりの年金給付費を年平均14万円も削減。後期高齢者医療保険料も引き上げようとしており、高齢者に背を向けた政治を進めています。